

校長室だより

杉並区立向陽中学校
4月号 平成29年4月22日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】 継続

「建設的な和～みんなの向陽中学校～」

保護者の皆様並びに地域の皆様方、日頃より向陽中学校の教育活動への御理解と御協力を賜りまして誠にありがとうございます。毎月中旬発行の「向陽だより」では伝えきれない学校としての考えや教職員の生徒との関わり、そして生徒の様子などをお知らせすることを目的として、「校長室だより」を毎月下旬に発行してまいります。学校からの一方通行の情報発信にならないように気をつけてまいります。保護者の皆様や地域の皆様からの御意見・御要望などもお待ちしております。御忌憚のない意見をお聞かせください。4月号は「平成29年度 学校経営計画」の掲載のため、8ページとなっております（通常はA4版表裏）。

◇ 平成29年度「学校経営計画」をお知らせします。

1 はじめに

本校は今年度、開校70周年を迎えます。輝かしい歴史と伝統ある向陽中学校に誇りをもって、さらに向陽中学校を発展させる向陽中学生に育てたいと思います。

「真のリーダーとは、自分の言葉と行動によって、相手の心と行動を変えられる人である」とある書にありました。そして、それができる立場にいるのは学校では校長だと思えます。今年度、私はこの真のリーダーになるべく努力をしたいと思えます。また、「子どもにとってはすべての大人がロールモデル。先生が楽しそうな顔をしていれば、子どももまねをするはず。より優れた子どもを育てたいなら、まず教える立場にある先生が元気に明るく楽しく指導に取り組むことが大切です」と。私も率先垂範しますので、先生方も「元気に明るく楽しく」の実践をよろしくお願いします。

私の学校経営の目指すところは、「教職員が気持ちと力を合わせ、生徒一人一人の命を輝かせ成長を図ること」、そして、その結果として「向陽中学校の生徒を見てください！」と言えることです。生徒の教育に欠かせないものとして、保護者・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員、そして私たち教職員といった“大人側の結束”があります。私は校長としてこの結束を図る中心的役割を果たしていきたいと思えます。

この1年間の学校経営のキーワードは、昨年度に引き続き「建設的な和～みんなの向陽中学校～」とします。これまでの課題を克服すべき「建設的な和」の醸成に“背水の陣”で臨みます。副題の「みんなの向陽中学校」には、「生徒一人一人が何事にも“私がやる！”

という前向きな気持ちで取り組む、様々な活動にみんなで取り組むことにより“自分がつくる”意識をもたせる。同時に、教職員一人一人が“自分がつくる”意識をもつ”という願いを込めました。新年度のスタートにあたり、改めて「建設的な和～みんなの向陽中学校～」を共有したいと思います。1年間よろしく申し上げます。

子どもの教育の原点は「子どもに関心を持つこと、子どもにかかわること」であることを大人が肝に銘じましょう。子どもは大人を見ています。生徒は先生を見ています。そこに人間的な関わりが生まれます。「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、生徒の心に響く」指導を全員で実践しましょう。そして、人として生きることの素晴らしさを伝えていきましょう。新年度のスタートにあたり、保護者・地域の皆様・小学校の教職員、そして本校教職員と「建設的な和～みんなの向陽中学校～」を共有したいと思います。

最後に、人としての土台となる“こころづくり・ひとづくり”を端的に表現したものに『時を守り、場を清め、礼を正す』という言葉があります。

◇時を守り・・・特に社会的な人間関係では時間を守ることは基本

◇場を清め・・・3つのS「整理・整頓・掃除」

◇礼を正す・・・あいさつ、礼儀、マナーなど

大人がしっかりと生徒に手本を示し、地域ぐるみで生徒を育てましょう。そして、生徒に「正しいこと」を教える時、“共感”という同じ目線のやさしさと思いやりをもちましょう。そうすれば、きっと心に響くはずです。先生方には是非とも生き生きと生きる姿を生徒に見せてほしいと思います。そして、生徒の成長を歓ぶ「人間賛歌」を一緒に歌いましょう。

2 教育目標（◎が今年度の重点）

◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人

3 めざす生徒像

「自立的に活動できる生徒」

○能動的に学ぶ・活動する ○対話的に学び考えを深める ○よりよい人間関係をつくる

4 めざす学校像

生徒の成長を約束する学校

(1) 生徒の笑顔と友情、そして活力あふれる向陽中学校

授業で先生方の最高のパフォーマンスを！

- ① 生徒が能動的に活動する授業づくり。生徒同士の関わりを有効な手立てとして！
- ② 生徒が課題解決学習を通して「分かった！なるほど！できた！」を実感できる。
- ③ 生徒が笑顔で元気よくあいさつする姿、来客にあいさつする姿を演出する。

- ④ 生徒が学校行事で活力あふれる姿を披露できるよう指導する。

(2) 「生きるって素晴らしいな！」人間賛歌が響き渡る向陽中学校

大人が生き生きと生きる姿を見せましょう！

- ① 「生きること＝人との関わり」であることを大人が生徒に手本を示す。
- ② 生徒に“私がやる！”の気持ちで能動的に活動させ、成就感と一体感を味わわせる。
- ③ 全員で「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、心に響く指導！」を実践する。
- ④ 全員で『平成 29 年度生活指導基本方針』を基に生徒指導に当たる。

(3) 生徒も大人もみんながかかわり、誇りと生きがいを感じる向陽中学校

人を教導くことへの責任感と真摯な態度！

- ① 生徒一人一人に公平に接すること、共感的態度で指導に当たることが鉄則です。
- ② 生徒に要求することは教職員が大人として率先垂範する。
- ③ 教職員は家庭・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員と連携を図る。
- ④ 教職員は自分の強みや持ち味を大いに発揮し、「建設的な和 ～みんなの向陽中学校～」を大切にする。

(4) 高井戸第三小学校と永福小学校の児童があこがれる向陽中学校

“人を愛し、人から愛される子”を育てる！

- ① “子どもは地域の宝物”・“学校は地域の宝物”を学校・家庭・地域が共有する。
- ② 生徒が安心して生活できる安全な環境を整えることは学校の重要な役割です。
- ③ 小学生の「向陽中学校への期待」が膨らむ小中一貫教育を推進する。
- ④ 小中教員の「知り合う→分かり合う→生かし合う」関係づくりを推進する。

5 特色ある教育活動（※平成 29 年度教育課程届より）

- (1) 向陽中学校区小中連携推進協議会を定期的開催し、小学校との学びの連続性や学習規律、生活指導の在り方を検討する。また、各教科等で指導方法の工夫改善を図るため、授業公開や研修会等を実施し、情報交換を深め、生徒へのきめ細やかな指導を行う。
- (2) 生徒が自らの行動を律し、なりたい自分に近づける力を身に付けるために、自己実現の力（自育力14か条の習慣づくり）を育成する。この育成には学校・家庭・地域が一体となり取り組む。
- (3) 土曜授業では、「向陽祭」や「震災から身を守る体験活動」等を地域の方々の協力を得ながら実施することにより、生徒たちと地域の交流を深め、いのちをさらに大切に心を育む。
- (4) 第1学年でフレンドシップスクールを実施し、自然体験・共同生活体験を通して、学級や学年内の人間関係づくりを進める。

- (5) 生きることへの感謝の気持ちとお互いを思いやる心、そして自他の命を大切にすることを育み、生徒に「人として生きることの素晴らしさ」を実感させる教育（人間賛歌の教育）を推進する。

6 保護者・地域・小学校との連携（地域運営学校として）

- (1) 生徒の基本的な生活習慣及び学習習慣の確立、そして健全育成については、保護者・地域との十分な連携を図る。
- (2) 保護者・地域への学校公開を通して、教育活動に対する意見や要望を受信するとともに、学校だよりや学年だより等による教育活動の発信を行う。
- (3) 学校経営の発信（校長室だより）及び学習指導計画・評価計画の公表、また学校評価アンケートの結果及び改善策の公表等を通して、学校の説明責任を果たす。
- (4) 学校支援の立場で活動しているPTA活動との連携及び協働を推進する。
- (5) 学校支援本部との連携による学習支援及び活動支援により生徒の学びを深める。
- (6) 高井戸第三小学校及び永福小学校との連携・交流により生徒のよりよい成長を図る。

7 「高三・永福・向陽」小中一貫教育

- (1) 3校小中一貫教育を推進し、児童・生徒のよりよい成長を図る。
- (2) この地域の子どもたちを“人を愛し、人から愛される子”に育てる。
- (3) 平成29年度小中一貫教育全体計画に基づき3校小中一貫教育を推進する。
- (4) 平成29・30年度杉並区教育課題研究指定「主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上」の研究に、高三小及び永福小と連携して取り組む。

8 学校運営方針

- (1) 学年や分掌組織のチームワークを大切にし、学校全体として組織的・機能的な学校運営を行う。
- (2) P(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)サイクルによる学校運営・組織運営を行う。
- (3) 個人として、
 - ア 当事者意識をもって、自己の役割と責任を果たし、「やるべきこと」から逃げない。
 - イ 生徒とともに活動する姿勢、率先垂範する姿勢を堅持する。
 - ウ 自己の強みを十分に生かすとともに、課題にも正対し改善する自己研修を行う。特に、教育課題研究「主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上」の研究に能動的に取り組む。
 - エ 常に『平成29年度生活指導基本方針』に戻って再確認する。
- (4) 組織として、
 - ア 誰もが「報告・連絡・相談」をしやすい教職員集団にする。
 - イ 誰にも得手・不得手がある。お互いをカバーし合い、支え合える教職員集団にする。
 - ウ 一人一人が自らの力量を十分に発揮し、切磋琢磨する中で教育活動が展開されるよう、「建設的な和 ～みんなの向陽中学校～」を大切にする。
 - エ 「杉並区教育委員会研究推進事業」教育課題研究指定校として「主体的・対話的で深

い学びを通した学力の向上」の研究に能動的かつ組織的に取り組む。

オ 生徒や学校の様子を保護者・地域に伝えるとともに、学校の考えや姿勢を示す保護者・地域への学校公開及び情報提供を重視する。

カ 生徒が参加する校外の行事やボランティア活動に学校として積極的に関わる。

キ 組織運営で大切なことは、

○「仕事分担、役割を明確にすること」

○「自己の責任を果たすこと（何を、いつまで、どのように、どうするか）」

○「常に先を見通した計画・立案に心がけること」

○「分掌や学年、委員会、教科部会の中に協力体制を築くこと」です。

全教職員が同じベクトルに向いている

生徒指導に関する
共通理解・共通実
践、生徒の「自立」
『自育力』の育成
建設的な和～みん
なの向陽中学校～

9 今年度の計画（学校経営の重点）

(1) 平成 29 年度教育課程届を基に教育活動を実践する。特に、教育目標「◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人」の具現化を図る。

(2) 今年度の特色ある学校づくり「自らの行動を律し、“なりたい自分”に近づける力を身に付ける向陽中生」（2年目の取組）を推進する予算（11万8千円）を有効かつ計画的に活用する。“自育力”と“表現力”の育成に生かす。

(3) 1年間の学校生活目標を学期毎に示すことにより、1年間での生徒の成長を実感できるようにする。そのために、「心に響く指導！」と「わからせる指導！」を土台として、生徒の集団力を高める。

年間を通して「自立的に活動できる生徒になろう！」

第1学期「明るい向陽を創ろう！」

第2学期「たくましい向陽を創ろう！」

第3学期「誇りある向陽を創ろう！」

(4) 生徒会の自主的な取り組み「いじめ0%5か条」を学校全体に広め、学校が和やかで温かな雰囲気になれるようにする。また、生徒会・各委員会活動が生徒の手による自立的な活動になるよう支援する。

(5) 重点目標と方策

① 「生徒を能動的かつ対話的に学ばせることにより『自立した学習者』に育てる。また、学力向上に欠かせない学習習慣の定着を図る」（よく考える人）

○ 生徒の自己評価「私は自分で課題を見つけ、進んで勉強するようになった」の肯定

率を 70.0%以上にする。

- 年間を通して、生徒が「能動的かつ対話的に学ぶことができる」ようにするために、これまでの授業を改善する。その際、生徒の「やる気スイッチ」を押ししたり「好奇心」を刺激したりする“しかけ”と“挑戦→失敗→修正”のサイクルを意識した授業づくりを試み、生徒の能力を引き出す。
 - 教育課題研究「主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上」に取り組む年間 7 回の授業研究会には、学校全体としての参画意識を高め、グループや全体会での検討・討議に積極的に取り組み授業改善に生かすとともに、新学習指導要領の先行の取組として発表可能な水準を目指す。
 - 年間 3 回実施の小中合同研修会において、各教科部会で「主体的・対話的な学び」の検討を行い、小中学校で教科指導を共有するとともに自己の授業の改善に生かす。
 - 全教科でデジタル教科書等の ICT を活用した授業を実践する。また、ICT を活用した授業公開を年 3 回実施する。
 - 国語の「漢字チャレンジ」、数学の「ドリル学習」、英語の「スペリングコンテスト」を実施する。※継続（基礎学力の定着）
 - 7 月に生徒による授業アンケートを実施する。生徒は自己の学習状況を振り返り、教員は生徒の声（特に能動的・対話的な学びはどうか）を取り入れた授業改善プランを作成し、2 学期以降の学習活動に生かす。※継続（学習姿勢の改善、授業改善）
 - 5 日間の夏季パワーアップ教室、土曜日・日曜日 12 日間の K O Y O スタディ、地域主催の「café 勉」との連携、学生ボランティアを活用した授業等を行う。（基礎学力等の定着）
 - 5 教科の家庭学習の定着を図る。4 月に「家庭学習の手引き」※を配付し支援する。この手引きの作成に当たっては、「自立した学習者とは自ら家庭学習に取り組む」ことを示し、事細かな内容を控える。年間を通して活用させ、家庭学習タイム毎日 1 時間の生徒の肯定率を高める。（学習習慣の定着）
- ② 「自分を大切にできる心と他人を大切にできる心を育て、『思いやりと感謝』を実践できるようにする」※継続 2 年目（思いやりのある人）
- 生徒の自己評価「私は 4 月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになってきている」の肯定率を 85.0%以上にする。
 - 生徒会の「いじめ 0%5 か条」の取組を生かし、生徒が自ら声に出してあいさつができるようにする。生徒の肯定率を 85.0%以上にする。
 - 全校体制で教室内での生徒同士の「共に鍛える」を実践させ、生徒一人一人が自分ができることは何かを考え、集団の中で自分なりに貢献していこうという気持ちを育てる。そして、これを土台に生徒が共に助け合いながら学ぶ授業を実践する。
 - 学級活動において、一人一人の生徒が係や委員、班活動などの自己の役割を果たすとともに、互いに助け合って活動できるよう指導する。（自己有用感、助け合い）
 - オリンピック・パラリンピック教育を踏まえ、生徒に「ボランティアマインド」を身に付けさせる。そのために、全校生徒が「地域清掃」を行い、学校で紹介する地域

等でのボランティア活動に参加する。また、生徒一人 1 回、自らボランティア活動に参加するよう支援する。(自己有用感、社会貢献)

- 生活指導基本方針の「指導の重点」の1つ「いじめのない学校をつくる」の具現化を図る。そのために、①「いじめ0%5か条」を全校生徒が共有する活動を行う。②6月・11月・3月のふれあい月間、9月の教育相談週間を活用し、生徒の実態を把握する。③毎週開催のいじめ防止校内委員会(企画委員会)で情報共有や対応策の検討等を行う。④保護者と「本校いじめ対応基本方針」を共有する。
- ③「自立的な活動ができる生徒及び集団」に育てる。そのために、自らの課題に向き合わせ、自力で解決しようとする過程を大事にする(たくましい人)
 - 生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の肯定率を85.0%以上にする。
 - 各学期末に生徒自身が取組状況を振り返る「自己評価表」を活用し、生徒の頑張りを共有するとともに、生徒が課題に向き合い前向きに取り組むよう支援する。
 - 年5回の定期考査に自ら計画を立て取り組めるようにする。第1学年では学習計画表を活用した取組を支援する。第2・3学年では生徒が自己学習に取り組めるよう生徒の実態に応じた支援を行う。(自立した学習者の育成、依存からの脱却へ)
 - 運動会や向陽祭、学年の宿泊行事、そして部活動の指導を通して、様々な課題を自力解決できる全校・学年・そして部活動集団に育て、生徒が「自立的な活動ができる集団」を実感できるようにする。(自浄作用、集団力)
 - 昨年度の生徒会・委員会活動の成果を踏まえ、「自立的な活動ができる生徒及び集団」に進化できるよう支援する。(意識の高揚、成果の共有)
- ④「自らの行動を律し、“なりたい自分”に近づける力を身に付ける。そのために、“がんばれ！自分！”を合い言葉に『自育力』を育てる」※3か年計画
 - 生徒が下記の「自育力を育てる習慣づくり14か条」の中で身に付いていない習慣づくりを自分で3つ取り上げ、1年間でその習慣づくりが身に付くよう支援する。

①規則正しい生活は成功につながる習慣づくり	⑧自分の役割を楽しむ習慣づくり
②自分から声に出してあいさつをする習慣づくり	⑨人のために行動してみる習慣づくり
③“ありがとう”を毎日言う習慣づくり	⑩お互いさまの精神で助け合う習慣づくり
④感情をコントロールする習慣づくり	⑪ちょっとした工夫でやり方を変える習慣づくり
⑤くよくよせずに失敗から立ち直る習慣づくり	⑫活動の範囲を広げ、挑戦する習慣づくり
⑥我慢強く、ねばり強くくり返す習慣づくり	⑬人や書物、作品などから学ぶ習慣づくり
⑦小さな目標を達成する習慣づくり	⑭「指示待ち」→「自ら行動する」習慣づくり

- 各学期末に生徒自身が取組状況を振り返る「自己評価表」の中で、生徒が「自育力14か条」に向き合い前向きに取り組むよう支援する。また、年2回の三者面談において、生徒の状況を保護者と共有し連携して支援するよう呼びかける。
- 「自育力ノート」※の活用(学習の過程を重視)により、生徒に自育力を意識させるとともに、生徒を「自立した学習者」に育てる。

⑤ 「全教職員が『建設的な和 ～みんなの向陽中学校～』の下、組織的活動を展開する」

- 「向陽中生を成長させたい、向陽中をよくしたい！」と当事者意識であふれる職場にする。そのために、自己の役割と責任を果たすとともに、個人プレーではなく組織プレーの仕事をする。
- 食物アレルギー対応には万全を期す。そのために、全教職員が「向陽中学校の給食アレルギー対応」を共有する。また、食物アレルギー対応委員会（職員会議）を月1回開催し、取組の状況確認や改善等について話し合い、情報を共有する。
- 毎月19日の「食育の日」の朝読書の時間に、栄養士作成の「食育だより」を読み合わせ、生徒に食育を行うとともに、給食の食べ残しを減らすよう呼びかける。
- 毎朝の「10分間朝読書」には全校同一步調で指導に当たる。また、学校司書による年3回のブックトーク、国語科の指導による読書新聞づくり2回を行う。
- 年5回の保護者会（年10回のPTA役員会・運営委員会）や年2回の三者面談等で保護者と同一步調の協力関係をつくり、学校と家庭が連携して生徒の教育にあたる。
- 学校運営協議会、学校支援本部、KSCC（向陽スポーツ文化クラブ）、「café 勉」を主催する「ふくぷくひろば実行委員会」との連携により生徒の学びをより深める。

⑥ 「高三小・永福小との連携・交流により、この地域の子どもをみんなで育てる環境をつくる」

- 小中一貫教育コーディネーターを中心に年3回の合同研修会を充実させ、オープンな気持ちと柔軟な考えで小学校の先生方と相互理解を図る。今年度は、特に「教育課題研究」に関して、各教科部会で「主体的・対話的で深い学び」の検討を行い、小中学校で教科の指導方法を共有し、児童・生徒の学力向上を図る。
- 9月に小学6年生の体験授業「小六プログラム」と部活動体験を行う。また、12月に中学1年生による「母校訪問」を行う。さらに、3月に生徒会プログラム「ようこそ6年生」を行う。（中学校を身近に感じてもらう、中学校への期待が膨らむ）
- 7月開催の「すぎなみ小・中学生未来サミット」での発表に向けて、1学期に生徒会が小学校を訪問し、「いじめ0%5か条」やあいさつ運動等の取組について説明し、小学校での取組を促し、小中学校の連携・交流を深める。

